

「シンガポール・エアショー 2010」開幕

シンガポール航空産業の成長に明るい展望

アジア最大の航空ショー「シンガポール・エアショー」が2月2日～7日、チャンギ展示センターにて開催されました。多くの企業や航空業界関係者が様々な関連イベントや会議に出席、大成功となりました。

前回 2008 年に比べ、ニュージーランド、スイス、ルーマニア、ロシアなど初出展した国も増え、国別ブース数は、前回の 18 個から 25% 増の 22 個へ増加しました。中でもシンガポールのブースは展示スペースを前回より 5 割拡大し、500 平方メートルのスペースを占めました。前回のエアショーの成功をうけ、多くの地元企業、特に精密機械メーカーが積極的に出展をし、強い存在感を示していました。

明るい展望

今回のエアショーは、世界経済が金融危機による深刻な影響下にあるにもかかわらず、航空業界に景気回復傾向と明るい展望があることを示しています。

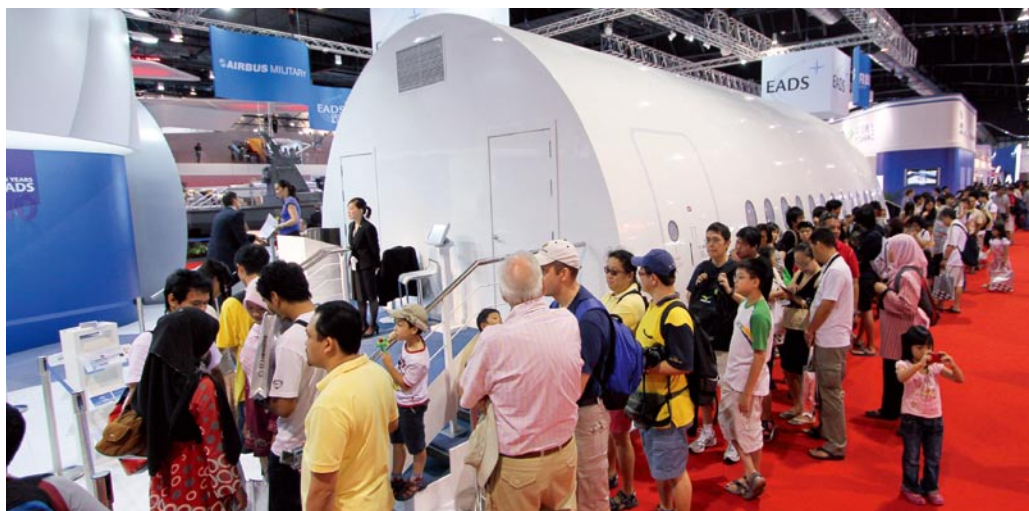
参加企業では、世界航空機メーカー大手 100 社のうちボーイング(Boeing)、ロッキード・マーチン(Lockheed Martin)、ノースロップ・グラマン(Northrop Grumman)、ハニーウェル(Honeywell)、ロールス・ロイス(Rolls-Royce) など 62 社が参加したほか、総勢 40 カ国以上から 800 社が集いました。そうした経営陣・業界関係者も顔をそろえ、エアバス(Airbus)の



ロールス・ロイスはセルター工場の建設に着工

トーマス・エンダース CEO、国際航空運送協会(IATA)からはジョバンニ・ビジニャーニ事務局長、ヘリコプター製造大手、仏ユーロコプターのルッツ・ベルトリング CEO、国際民間航空機関(ICAO)のロベルト・コーベ理事会議長などが出席。航空業界におけるエアショーの重要性が浮き彫りとなりました。

シンガポール・エアショー・イベント(SAe)のジミー・ラウ取締役は、多くの企業が参加したことについて、「航空機大手メーカーが自信を取り戻している兆候。業界はゆっくりではあるが景気低迷から脱却しつつある。シンガポール・エアショーは今年最初に開催された航空ショー。航空業界は回復の鼓動を感じ、今後を見据えて調子を取り戻すことができるだろう」と述べています。



「シンガポール・エアショー 2010」は 112,000 人以上の参加者を迎えた

ハイライト

今回のエアショーは、アクロバット飛行デモのほか、ビジネスフォーラムの開催や環境専用ブース「グリーン・パビリオン」の設置など、参加者が新しい体験をできるようなイベントとなっています。ビジネスフォーラムでは経営者や専門家によるセミナーを開催、参加者はインド、中東や中国などの新興市場での商機開拓や事業ノウハウの話に熱心に耳を傾けていました。「グリーン・パビリオン」では、航空業界の二酸化炭素排出量を管理する画期的な取り組みを紹介するほか、セミナーや展示会も実施されました。

様々な会議も同時に開催されました。「リーダーシップ・サミット(SAALS)」では、各国の政府、関係省庁、航空業界の代表が経済危機により航空業が直面した問題について、そして「アジア太平洋安全保障会議(APSEC)」では、各国の軍関係者、軍需メーカーの幹部や学識者が、米国や中国などの軍の近代化や再編がアジア・太平洋地域に与える影響について議論しました。「技術・保守の新たな課題を模索する会議(NCATMC)」では、一流のエンジニアや研究者たちが航空産業における最近のMRO(整備・修理・オーバーホール)の動向について研究発表を行いました。

ビジネスマッチングを促進するためバイヤーを対象としたプログラムも開催されました。SAe、国際企業庁(IE)、シンガポール航空宇宙産業協会(AAIS)が共同で実施したこのイベントには、航空会社、空港、MRO企業、大手サプライヤーやメーカーから

多くのバイヤーが参加しました。

航空産業に関心を持つ学生を対象とした企業説明会もあわせて実施され、学生たちは企業トップの方々の実務経験談を聞き、参加企業の人事担当者と話すなど情報収集の場として活用していました。EDBをはじめ、シンガポール航空宇宙産業協会(AAIS)、シンガポール民間航空管理局(CAAS)主催のセミナーやイベントも開催され、13の高校・大学から約600人の学生が参加しました。

2年に1度開催される「シンガポール・エアショー」は、世界3大航空ショーの一つで、アジアでは最大規模です。

■ エアショーで発表された新投資案件および拡張計画

ロールス・ロイス	セルター航空団地にてセルター工場の建設に着手。トレントエンジンの組み立て・テスト、ワイド・コード・ファン・ブレード翼(WCFB)の製造を行うほか、研修センター、R&D施設も併設。広さ165万平方フィート(約50万平方メートル)。
シンガポール・エアロ・エンジン・サービス(SAESL)	MRO施設の拡張工事を開始。完成時には、ロールス・ロイスの全てのトレントエンジンのMROを行う世界唯一の工場となる。投資総額は約39億円(6,000万SGD)。
SIAエンジニアリング(SIAEC)	次世代航空機「エアバスA380」を収納できる世界初の格納施設「Hangar 6」をオープン。



SIA エンジニアリングは「エアバス A380」を収納できる世界初の格納施設「Hangar 6」をオープン